

人懐っこいトンボ オナガサナエ

朝、空堀川側道の鉄柵の上に、とんぼが一匹止まっていました。ぱっと見て、「オニヤンマ！？のカラーリングだけど、ちょっと小さいか？」 そっと近づいても、逃げないので、触れる距離にまで寄り、しっかり観察をして、スマホを使って、ネットの昆虫図鑑サイトで調べてみると、やはりオニヤンマではなく、どうやら、オナガサナエという種類でした。カラーリングは似ているのですが、オニヤンマ科でもなく、サナエトンボ科でした。大きさは6cmほどで、7cmのオニヤンマより、一回りほど小さい中型種です。

■オナガサナエ トンボ目 サナエトンボ科 オナガサナエ属

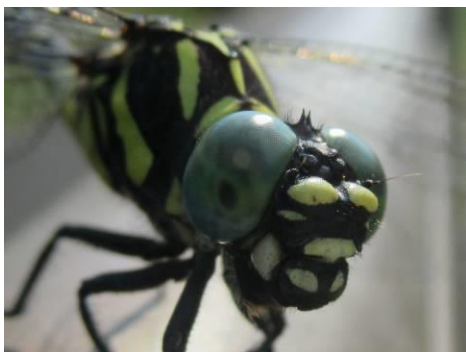
R5,7,26 清瀬市

日本にいるトンボは、200種類以上もいるそうで、世界中では5000種類を超えるとのこと。サナエトンボ科のトンボたちは、体長が5～6cm位の中型で、黒地に黄色の条（じょう：すじ）の模様と、黄緑色の複眼が基本です。ヤンマ科やオニヤンマ科のトンボと、体の形や、カラーリングが似ているので、混同されやすいです。オニヤンマ科は複眼が真ん中でくっついていますが、サナエ科は離れています。

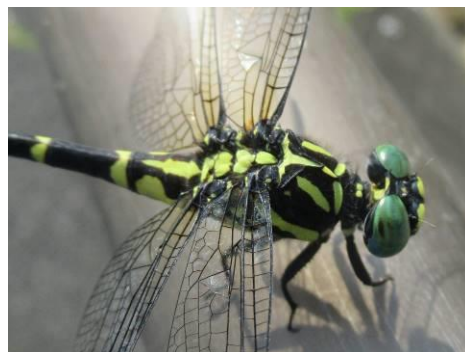
オナガサナエは日本特産種で、本州・四国・九州に生息していて、よく見かける普通種です。雄は尾部の先にある付属部が黒くて大きく長いのが特徴で、これが名前の由来ですが、雌はその特徴がなく、種類を見分けるが難しいです。今日の個体は雌のようで、胸部の模様や、黄色い条のようす、頭や複眼の形から、判別しました。

オナガサナエは、トンボの中でも、とくに警戒心が弱い種類の一つで、かなり近寄っても逃げません。じっくり観察させてくれる良い性格です。しかし捕まえようとする、と、サアと飛び立ち、とんぼが得意とするホバリング（空中停止）で、逃げてしまいます。

幼虫のヤゴは、川の流れの速い石の下に生息して、水生生物をエサとしています。



顔のアップ 大きな緑色の複眼



複眼が離れています



尾部の付属部 この個体は雌です。

【関連動画】NHK for School
「とんぼの産卵」

https://www.2nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005401077_00000



「トンボの体のつくり」

https://www.2nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005300163_00000

